

一九七七年二月一日第三種郵便物認可

発行所 社会通信社

発行人 滝野 忠

東京都渋谷区本町六丁目二八の二コーポル幡ヶ谷九〇四 電話(03)3377-4649

FAX(03)3299-5367

振替 〇〇二〇〇一九一五八四三一 労金 東京労金本店 No1154163

購読料 月額 600円 6カ月前納制

〈もくじ〉

■巻頭言

十一月二日「いま、めぐそう」護憲の党「集会」に参加しよう……………2

「敗北主義集団」の丸ごと新党加速……………3

——「護憲懇談会」を批判する「新党推進・自称左派」——

◇資料と解説◇

「護憲ネット」と「護憲懇談会」が一体化へ……………6

資料 護憲ネット「全国代表者会議」議案(九五・十・十四)……………6

バブル崩壊下、あえぐユニオン連合……………8

——中小と大手の亀裂は拡大へ——

◇国労帯広闘争団からの報告◇

国鉄闘争への熱い想いを交流……………14

「政界再編後を読む」(上野建一著)のすすめ……………13

読者からのおたより……………15

◇好評発売中 上野建一著 社会通信刊◇

政界再編後を読む——護憲の旗を掲げて

四六判上製、二百頁、千五百円(千三百十円)

旬刊 社会通信

NO.619

一九九五年二月一日

一九九五年二月一日発行
(毎月一日・二日・三日発行)

■巻頭言■

十一月二日「いま、めざそう」『護憲の党』集会に参加しよう

「社会党五〇周年記念の社会党員集会」開催へ

「日経新聞」(十月一七日付)の世論調査は、きわめて興味深い結果をみせている。質問事項は多岐にわたるが、とりわけ関心をひくのは「日米安保体制を今後、どうしていくべきだと考えるのか」との項目。選択肢は三つ。

「現在の体制を維持していくべきだ」が四三・五%。前回八月調査では五九・八%だったから、一六・五%も減少。他方、「解消すべきだ」が四〇・二%と、前回比で一・五%ふえ、「いえない・わからない」は一六・三%と前回比四・八%の増。一面見出しでは、日米安保維持派が急減、というわけだ。

これには、天下周知の米兵による少女暴行事件、犯罪者を即逮捕できない「地位協定」にみられる明治の時代を思わせる「治外法権」制度、さらには国民福祉・医療制度を改悪しながら、米軍関係への予算は拡大の一方という「思いやり予算」が深く関係している。

社会党中央は「頭が悪」い。時代のゆくえを分析し、方針を練ることが皆無であることだ。「山が動いた」一九八九年の時代背景は、中曽根第二臨調による自民支持基盤の動揺、ベルリンの壁崩壊とソ連邦解体、国内的にその反映だった総評の壊滅は、「資本の論理」を野放しにすることだった。社会党は、だから基本政策を断じて破棄すべきでなかったのだが、昨年九月、そして今年の五月と九月の大会で社会党久保執行部は、自滅への道をひた走っている。

他方の同志からの連絡によれば、党本部の責任者は、(一)十一月二日に新党の姿を出したい、(二)その政治判断はこれから七、十日間、(三)新しい党の姿は(イ)民主連合プラス社会党プラスリベラル・フォーラム、(ロ)民主連合プラス社会党のいずれかになる可能性が高い、(三)新党の名称、代表、会計、規約、綱領は法制上、名目的に届け出る。(イ)綱領、規約は準備中、(ロ)その内容は法三条的なものになると述べたそうである。

十一月二日が話題になるのは、五〇年前の一九四五年十一月二日が社会党結党の日にあたるからだ。社会党中央はこの日、都内のホテルで二万円パーティーを開く。これに対抗し、「再建・社会党」(仮称)をめざす「護憲懇談会」は同日、「いま、めざそう」『護憲の党』十一月二集会を開く。参加費は五百円、場所は自治労会館大ホール。呼びかけ文は次のように述べている。

「十一月二日は、社会党結党五〇周年記念日です。まもなく憲法も満五〇歳になろうとしています。

冷戦構造が崩壊した今日、平和憲法はいよいよ輝きを増し、本来の社会党の先見性と正しさが証明されています。今こそ社会党は姿勢を正して、平和憲法を擁護しその実現をはかるとともに、その精神を世界に広げるために力をつくさなくてはなりません。

このときに、社会党が自ら解党し、新旧の保守党と大差ない新党に変質して、解釈改憲や創憲論に基づき護憲を捨てることなどは、決してあってはならないことです。未来に責任を負う私たちはこれを看過するわけにはいきません。

この記念すべき日に、心ある皆さんが各地から集い、五〇周年を真に祝うとともに、護憲の社会党の再建と、広範な護憲勢力の大結集のために、決意を新たにしたい。」

詳細は左記のとおり。読者諸氏のご参加はむろん、職場、地域の友人、知人によびかけていただき、会場を超満杯にしたいだくことを訴えたい。

日時 十一月二日、午後六時より

場所 自治労会館大ホール(総武線・市ヶ谷駅下車五分、地下鉄有楽町線・市ヶ谷駅下車、同集会名 「いま、めざそう」『護憲の党』十一月二集会) (H)

「敗北主義集団」の丸ごと新党加速

——「護憲懇談会」を批判する「新党推進・自称左派」——

島根県本・党内デモクラシーで解党拒否

前号で報じたように左派といわれてきた県本段階も次々と展望もなく、総支部・支部段階での議論もないのに「新党準備会」や「新党推進委員会」などを結成しているなかで「社会党らしさ」の新党反対運動を堂々と具現しているのが島根県本部である。

社会党島根県本部は、十月十四日定期大会を開き本部に対して「党員の意見を無視するのは言語道断」ときめ付け、島根県本は「社会党の良心と理念を継承し、解党に反対する」の決議を採択した。議決権のある大会代議員百七人中六十九対三十四の票決で決めている。三分の二の多数派の意思である。この結果には誰れも文句のつけようがないのである。

島根県本部が立派なのは民主的討議だけの問題ではない。討議Ⅱ意思統一Ⅱ実践Ⅱ総括というまさに理論と実践の統一を型通りに推進してきた成果があるからである。そして実践の中味としてはいうまでもなく勤労県民の平和と民主主義（権利）そして生活に関する要求を第一にとりあげている。もちろん克服すべき問題点が無いわけではない。むしろ彼等にいわしめれば、「なかなか前進できないことばかり」という。ことに今は経済不況と政治反動の時期である。全国的に労働運動も政治運動も後退につぐ後退をしてきた。大労働組合は上級幹部ほど資本から独立できず、機関は官僚化し労務管理上の機能と化しているのである。中級以下の幹部の大部分も自主規制し活力を失っている。

この現実の労働運動に活を入れ、企業の枠を越えた大衆運動として一般勤労県民を巻き込んでたたかいを推進するのが社会党の「社会党らしさ」であり、憲法を現実社会に活かす道である。綱領や政策の美辞れい句で大衆は動かない。勤労大衆が社会党と共に動くのは、大衆の生活と権利に関する要求と党の政策と行動が一致したときである。

例えば現在沖縄ではアメリカ兵の「少女暴行事件」をきっかけに安保条約の破棄を求めて（地位協定の見直しでは沖縄県民の多数は永年にわたる犠牲から救われないと自覚している）起ち上っている。その先頭に県知事が立っている。知事が全県民の意思をどこまで貫くかは、沖縄県民これからの盛り上りにかかっている。そのために先頭に立って、リーダーシップを発揮すべきが社会党の首相をもつ社会党沖縄県本部のはずである。今度の沖縄のたたかいはすでに社会党の指導性を必要としない（「安保堅持」などという馬鹿げた公約違反の基本政策の転換を行ったことが大きくマイナスになり離党者が多く出た）のではない。すでに社会党は大衆運動の党ではなく議員政党（しかも小さな）であり選挙党に成り下がってしまったからである。しかし沖縄のたたかいを全国的なたたかいに発展させるのは護憲・左派のたたかいである。われわれはその先頭に立つことである。村山内閣はここまですれば余命いくばくもあるまい。しかし日本の平和と民主主義、そして勤労国民の生活と権利のために何か一つ実現するとすれば今は「沖縄から基地を無くすこと」である。社会党らしさのたたかいはこれである。村山首相はその政治生命をかけて県知事と力を合せて奮闘すべきである。それで前進すれば「リベラル新党」の必要はなく、社会党

は生き残るのである。

「新党にゆく」姿をかくすための理屈

「理屈は後から貨車で来る」という名(迷)言を吐いたのは、かつての民社党委員長長の春日一幸氏であったが、リベラル新党「反対」から転向を開始した人達からも「新党に参加するための理屈」が続々と到着している。ことに最近まで左派といわれてきた人達(原本の執行部、その専従者など)からの発信が多い。その一部を紹介しよう。①「新党の中で、社会党的な政策、運動をつくり広げる」ことを課題に「社会党丸ごと移行する」。②「社会主義者と社会主義運動」を明確に否定されないかぎり、党員・勤労国民と離れることなく、大衆の中で活動を続ける以外ない」(社会主義協会東北支局の「東北通信」十月五日付)。この考え方で支局大会の意思統一を図るのだという。

何故、解党と新党に反対してきたのに一転して第三保守新党に行くのか。次のように説明している。①党内論議や拙速との批判も無視して社会新党は進められ、十一月から年内を焦点に結成の動きは強まる。②第六十三回全国大会の「新党結成決定」を受け、各県本部も具体的に対応せざるをえない。③幅広い勢力の結集は期待できないまま進められ、最悪の場合「看板の掛け替え」に終わることになることもある。④衆院選のことなどを考えると「阻止」(新党を)できる状況ではない。⑤地方組織の党員が考えている「どういう党を作るのか」について議論(党内論議の保証など)ができるというものでなく、全て新党準備会で決めるのであるから、このこととうえで対応を考えざるを得ない。⑥地方党員は、党内論議が無いまま進んでいる新党に対して「丸ごと移行は分るが自分はどうするか」を考えている。⑦現在の専従者や書記局員の「雇用問題」や新党準備の分担、財産処理問題などに積極的にかかわる必要がある。……ということである。

「東北通信」を要約したが本文は、わかりづらい文章である。「転向」への「後めたさ」のせいなのかも知れないが、これで東北の「社会主義者」は意思統一ができるのだろうか。まさに「新党バスに乗り遅れない」ために、無理に理屈をつけたところである。

本誌では、右のような「丸ごと新党」論に対してかなり前から批判してきたし、「新党はできない」という人の多い頃から、労働組合が加って、いわゆる左派の一部も巻き込まれて新党にもって行かれることの危険性を訴えてきた。したがって今さら反論する必要を認めないのである。が、社会党の再編・再建のためにきびしい条件下に頑張っている「護憲懇談会」についてこの東北協会の一部は「批判せざるを得ない。」と行って非難・中傷をしているのである。反論することによって護憲懇談会の戦略・戦術の正しさを証明しなければならぬ。

護憲懇談会について彼等は「それは、一見社会党員の不満、不安に込められているようにも見えるが、社会党組織と党員、労働組合と労働者と離れて「少数の党」を目指すものでしかないからである。当初は、「死んだ社会党の再建はない。護憲新党を」と呼び掛け、これが進まない中で転換したものでしかないからでもある。」と語っているのである。「盗人猛ましい」とはこのことであろう。「リベラル新党」がかつての民社党よりも反革新的であり、反勤労者層的であり、排除の論理で固められていることは周知の事実である。そして何故今新党なのかは改めていうまでもあるまい。日本の支配層の大資本

と官僚と保守政治勢力が、永年の夢であった一党支配政治体制の確立と憲法の改憲めざして「小選挙区制」を実現したことによって政界の再編成が進んでいるのである。まだ一度も小選挙区制の下での総選挙が無いのに、すでに二大保守党（中間政党を吸収して）が誕生してしまった。政権に入閣したいばかりに、革新少数党にとっては命取りのアーである「小選挙区制」に賛同してしまったのである。確たる政治戦略を持たぬ社会党（幹部は患部になっていた）は、支配層（マス・コミの打出す操作を含めて）の意図する方向で右往左往させられているのである。そして今頃になって第三極の新政党だということのだから政界の孤児に成り下がったのである。今はまだ村山内閣が続いているから社会党は残っているが、内実は全黨員がバラバラの意識にされ、指導部への求心力は最低に落ち込んでいる。田辺、山花元幹部等に加えて山岸元連合会長を先頭とする資本から独立していない労組幹部等に挽き廻された新政党問題が起きてから勤労者の党らしい活動は激減している。「社会新報」は今や三分の一になったという。離党者も多く、若者は寄り付かなくなった。

リベラル新政党論には理念はないから政党というより「選挙互助クラブ」というところだ。どこに新旧二大保守党と闘う意思と態勢があるというのか。「社会主義者と社会主義運動」を明確に否定されないかぎり、その新政党に尾を振ってついてゆくというから不思議である。「黨員・勤労国民と離れることなく」ともいつている。新政党には「左派と長老」はいらぬといっている。社会主義者とその運動を認めるわけがないのである。民主リベラル新政党に真先に流れていった社会党北海道本部の「結成のためのプログラム」は、冒頭に「歴史の大変革期にあって、依然として従来の抵抗的発想を引きずり、また野党的言説と論議に終始することがあってはなりません」といい切っている。資本家や官僚のよくいう言葉である。今の日本で住民運動だつて一定の「抵抗」の運動がなければ要求は通らない。ましてや職場の要求や賃上げはなおさらである。さらには人べらし合理化に「抵抗的発想」なくしてどうして勤労国民は生き残ってゆけるのであろうか。野党的言説と論議がなければ少数派政党（第三極といつてもよいが）は何んのために存在するのか。党道本は最初から権力者、いつも与党のつもりのようなところだ。ところが、もっぱら推進派のいうようにリベラル新政党が立派に第三極として結成されたとしても（そんなことはありえないが）、次の総選挙（来年六月頃を想定している筋が多いが）では二十人の議員が当選できれば善戦だという。二十人の党がどうして野党ではないのか。総選挙後も自民党と連立を組むつもりであろうか。二十人ぐらいでは相手にされまい。新政党はどう見ても次の総選挙までの運命である。その後は自民党か新進党に吸収されるのではないか。そうなれば、社会主義運動を行うどころか、新政党そのものが消滅するのであるから「少数の党」ですらなくなってしまう。

「護憲懇談会」は「護憲新政党」などという方針を出したことはない。それこそ明確に社会党を守り残すために奮闘しているのである。党内外（社会の離党者と支持者も結集の対象）の護憲・左派の結集を図るのである。リベラル新政党は十一月から十二月にかけて新党を結成しようとしている。そのときほんとうの左派がいつでも起ち上れることである。

（政権研究班）

◇資料と解説◇

「護憲ネット」と「護憲懇談会」が一体化へ

「護憲ネット」がそのため全国代表者会議を開く

「護憲ネット」は一九九三年十月、護憲の社会党 再建を問題意識に発足した。その契機をなしたのは一九九三年六月三日に日教組会館でおこなわれた「日経連・山岸連合会長の社会党ジャックを許すな」をメイン・スローガンとする全国社会党員集会だった。

「六・三集会」以降、労戦再編成から政界再編成へと展開した政治情勢は自民党の分裂、細川政権成立へと劇的に展開。小選挙区制法案を中心とするいわゆる「政治改革四法案」が政治的焦点となった。

当時、青票議員を中心に「太陽」がつくられ、彼らとともに「護憲ネット」は発足した。しかし、「太陽」は西に沈んだが、その苦い経験から今年の五月「護憲懇談会」が十人の衆・参議院で結成。「護憲懇談会」は八月の勉強会で(1)久保氏が主導する「新党」には反対、(2)たとえ結成されてもいかなることを宣明。「護憲の社会党」再建に全力をつくす旨、明らかにした。

「護憲ネット」の方針は、当初から社会党員をまず中心に「護憲の社会党」再建をはかるというもので「護憲ネット」と「護憲懇談会」の考え方は一致した。そこで、二つの組織の「統一」「融合」が表面化し、十月一四日の「護憲ネット」全国代表者会議で統一の方向が確認されたというわけだ。

ポイントは十二月から事務所を共同使用し、十一月から「護憲ネットニュース」を「護憲懇談会ニュース」に改題するというもの。両組織ともに社会党が「新党移行」した段階で再建「社会党」(仮称)旗上げを準備するとしているから、社会党を愛する党員、支持者にとつて、この一、二ヶ月はきわめて苦しいけれど楽しい日々となる。歴史をつくる気概と気迫で、「護憲懇談会」の議員諸氏を励ますためにも、地域、職場から、前号で紹介した私鉄社会党員有志連絡会の仲間のとりくみにつづくことを訴えたい。

資料 護憲ネット「全国代表者会議」議案(九五・十・一四)

「護憲懇談会」との一体化のために

一、情勢と経過の報告

社会党は九月の全国大会において、新党移行を十月下旬と決定した。しかし、新党結成の準備が整わず、大幅にずれ込み、早くして十一月下旬から十二月中(年内)、遅くなれば、来年の総選挙前(選挙は六月を想定か)との見方が大勢となっている。党中央が「解党方針」を決定している以上、いかなる事態にも対応できる準備を急ぐ必要がある。

その原因は、①呼びかけ人会議が力不足で社会党の一派閥的存在に過ぎず、新党の準備

会とはなっていない。呼びかけ人の中にも嫌気をさしている人もいる。②幅広くりべラル層へウイングを広げるつもりが失敗し、「さきがけ」すら寄りつかない状況。強行すれば護憲・左派は勿論、中間派、良識派の党はなれを一層進めることになることから、推進派も迷走している。③二一単産（現在は三三単産に拡大）といわれる新党推進労組会議の場合も温度差が大きくあり、自治労を先頭に情報集めや「横路事務所」への資金援助と社会党への介入的言動を繰り返すだけである。今後、傘下労組や関連労組への働きかけを強化しようとしている。労組が積極的になればなるほどりべラル保守系は逃げるという状態である。④全国的にブロック会議が開始されたが、下部の批判が多く「今なぜ新党だ」「りべラル新党はどういう党かもハッキリしない」など反対の議論でいっぱいである。結局、看板を書き換えて移行することになるという見方が第一線の活動家には大勢となつていく。⑤第三極というが、それは「社会党らしさ」皆無の第三保守党に過ぎないことになる。これでは総選挙で勝てないし、惨敗しかない。候補者が三〇〇議席中せいぜい一〇〇議席前後であろうかといわれ、前進できる大勢にないこと、などである。

二、護憲懇談会との一体化のために

護憲ネットは、社会党が新党結成の準備会を設けた場合は、我々も再建準備会をつくると方針を明確にしてきた。五月の党大会直後に国会議員有志による護憲懇談会が結成された。護憲と勤労者の党としての社会党を守り、再建させるために全力をあげることにしたので、我々の護憲ネットも「護憲懇談会」と一体化をはかる努力を行う。

A、十二月一日から「ネット」は、護憲懇談会と一体化を果たす。

B、ネットの事務所は、今後は懇談会事務所として十二月から使用する。

C、ネットニュースは、護憲懇談会ニュースとして継承する。ネット会費又は講読料の前納者には了解を得て送付する。なお、新たな段階に備え、週刊新聞の発行を準備する。

三、当面の活動について

A、我々は、全力をあげて護憲懇談会につらなる組織、グループを早急に結成する。二大保守党と対決できる再建・社会党（仮称）の旗揚げに間に合うよう全力をあげる（名称にはこだわらない）。その一環としての十一月二日の集会の成功を期す。

B、綱領、基本政策、規約などを今までの方針と調整しながら護憲懇談会から案文を早急に提案する。

C、離党者と充分話し合うことによつて共同の活動を行えるようみんなで努力すること。党外支持者にも積極的に働きかける。

D、「新党に行かない」「あくまでも党に踏み止まって社会党を再建する。」という人にも広く呼びかけていく。社会党の公約と五〇年の運動の歴史を大切にしなければならない。

E、「軍縮」パンフの販売と学習運動及び署名活動を精力的に展開する。

F、私鉄グループが推進中の「新党に行かない」署名運動を労組グループ全体に拡大する。

バブル崩壊下、あえぐユニオン連合

——中小と大手の亀裂は拡大へ——

バブル最盛期発足したのがユニオン連合。バブルの破裂、日本経済の構造変化の前に、連合は労働組合としての存在を根本的に問われている。

連合大会で何が論議され、鷺尾事務局長はどう答弁したのか。大会の模様を報告する。

(編集部)

私にとって連合大会に参加するのははじめての経験であった。地方から出てきて、今や権力の一構成要素となったユニオン連合の大会とはいかなるものか、期待と不安が交錯する中、オープニングを待った。

オープニングはレーザー光線による演出だ。開会前からドライアイスによるものだろう。白煙が大会会場にたなびいていた。大会スローガンは「変革に挑む、たしかな一歩」とある。レーザー光線が白煙を払い、「日本の夜明けを開く」とのイメージであったのか。企画倒れとの印象だ。「変革に挑む たしかな一歩」の気迫はオープニングのセレモニー、大会全般をつうじてまったく感ぜられなかったからだ。

鷺尾指導体制に強い不安

春闘発足から四〇年がたつ。労働界は一九七〇年のスト権スト以降右傾化の迷走にひた走り、戦後の平和と民主主義の担い手であり、かつて「むかし陸軍、いま総評」とまで言われていた中曾根第二臨調下、解体され「統一」との名のもとに連合が結成されたのが一九八九年十一月。あれから七年がたち第四回目の定期大会がおこなわれたのが十月五・六日であった。

今回の大会スローガンは「変革に挑む たしかな一歩」。結成以来の中期方針である「日本の進路」「政治方針」「組織方針」「賃金政策」をふまえて一九九六、一九九七年度運動方針を原案どおり可決した(前号参照)。

今大会運動方針の特徴は①「成熟化社会への挑戦」を掲げ、大量生産・消費型から低成長時代に変化するにともない物質的な要求から「生活の質」へと移し、低成長と財政制約のなかで構造を変革してあらたな社会システムの構築のため制度・政策要求に取り組み、不公正是正にむけて勤労者・生活者重視の配分変更を実現する、②産業構造転換にともなう雇用の流動化には柔軟に対応し「失業なき雇用移動」をサポートする、③連合の社会的影響力を増大させるために一〇〇〇万人連合をめざし、パートタイム・管理職者層に組合員のわくをひろげるなど未組織労働者の組織化をすすめる、④政権交代可能な二大政党体制をめざすが、構成組織と政党との関係は各構成組織の判断にまかす、民主改革連合は一つの節目の時期と認識し存続させながら結論をだす、などであった。

昨年十月に山岸章前会長が任期途中で辞任し芦田会長にかわるというハプニング交代劇があったが、今回も執行部にたいする批判の声があるなかでJR総連から事務局長に対抗馬がでるなど結果は少数否決とはなったものの、順風満帆(じゅんぷうまんぱん)のはこびにはならなかった。方針にかんする質疑では、これまでの連合声明・鷺尾路線にたいし

て「連合が見えない」「(選挙で)連合の股裂きをさける。政治活動がやれなければ地方連合の存在は半減する」「中小の解雇撤回のたたかいに手を差し延べろ」「反戦闘争を目にみえる形で強化しろ」「職場・産別・ナショナルセンターが一体となった春闘を」など八〇〇万連合の指導性をもとめるかたちとなった。

迫力ない来ひんあいさつ、海部氏にはヤジ

連合の政治方針は「自民単独政権への回復は許さない」というもので、今回あらたに「新進党との協力・協調」がくわえられ、結果、来賓に村山首相、社会党書記長・久保、新進党首・海部、さきがけ党首・武村氏ら。

村山首相は「総理になるとものが言えなく、後で問題になると困るから原稿を書いてきたから読み上げる」と前置きし、「戦後五〇年で内政外交両面の転換期、政治は国民にわが国の進むべき道を示していかなければならない重要な時期。連立政権は被爆者援護法・従軍慰安婦などの戦後処理に取り組み解決、長年の懸案であった水俣病の問題も進展している。わが国の核にたいする歴史認識と世界平和を基準とした今後のあり方を明らかにしてきた」と自賛。さらに「参議院選挙でしめされた国民の批判を謙虚に受け止め政治に対する信頼を回復する必要がある」とちよっぴり反省を示してみせたが、「連合は力と政策をかけた完全雇用・労働基本権の確立・労働諸条件の改革など勤労者生活にかかわる政策の中心に多大な貢献をしている。内外に問題は山積しているが政府は連合と手を携えて景気の回復と雇用の確保のために頑張っていきたい」と連合にエールをおくり、現連立政権と一体であることをアピールした。

久保社会党書記長は「参議院議員選挙の結果、四四・五%の投票率が示すのは議会制民主主義の危機、政治家の責任。自民・新進党に収斂(しゅうれん)されていく政界再編はこたえられるのか。ワンチャンス、ラストチャンスともいべき次期総選挙に政治勢力の結集をやりとげなければならぬ」と新々党づくりの弁を政党の責任、政治家の責任と訴えていた。

またさきがけ党首で大蔵大臣の武村氏は「不良銀行がつぶれるのは当然のこと」と、大蔵大臣としては異例の発言をおこなった。しかし、金融・証券業界に世界に類例のない監督責任をもつ大蔵省の不祥事には何一つとして反省の念はなく、パフォーマンス蔵相そのままであった。

さらに、連合参議院あらため「民主改革連合」の笹野参院議員は、連合方針にある民主改革連合の「解散方向」に、「残してくれ」とあい願した。

連合大会にもヤジがあるのとビックリさせられたのが海部氏が宗教法人法改正反対におよんだとき、「なにをいうか」との大きなヤジ。愉快であった。

政党支持ではお手上げ状況

芦田連合会長のあいさつは、現状のユニオン連合の実態を示すように、まったく迫力が感ぜられなかった。

まず、政府が先に決定した総額十四兆一千億円にのぼる経済対策について金額的には評価できるとしながらも、「今、やらねばならない政策は単なる不況対策ではなく、産業構造の改革、新規事業の育成、雇用対策、金融不安対策、阪神・淡路大震災の本格的な復興計画など、中期のしつかりしたビジョンをもったものでなければならぬ」と強調、産業

の高度化、高付加価値化のみならず、情報や環境など新たな技術やニーズを先取りした新しい産業群の登場を可能とする基盤整備を図るよう訴えた。

来春闘に関しては「日本が本来持っている成長力を発揮させるためにも、積極的な賃金の引き上げが必要である」と強調、やや下火となった感のある労働時間短縮要求についても、いま一度要求の原点に立ち戻って体制の構築を図っていく意向を表明。

政治問題については、「現在も再編過程にあり、ゴールが見えない」とし、連合の構成組織の中で社会党を支持する、二五単産が新党結成を働きかける活動を強化しているのに対して、旧民社党支持グループが新進党への傾斜を強めている事実を認め、「それぞれが支持する政党をお互い認め合うのが、連合の政治方針であり、その原則にもとづいて対応していかなければならない」と、当面政党支持をめぐる股裂き状態は覚悟したうえで対処せざるをえないとの認識を明らかにした。

さまざまに連合に注文

連合運動方針の特徴は、前号の「社会通信」でもふれたが、総論部分（運動方針その1）で提起された「成熟化社会」の概念だ。これは鷲尾事務局長の持論、「日本の労働者は豊かになった。それでも生活が苦しい、不安というのは、生活にムダがあるから、生活を見直す必要がある」との問題意識から提起されたものであろう。大会論議はこの点に集中した。

「（成熟化社会とは）もはや三〇％、五〇％の成長も望めないような社会だというイメージを受けるが、いまの低成長をわれわれは是認しているわけではない。三〇％程度の成長をめざしながら春季生活闘争を組み立てているので、そのへんがどうかみ合うのか知りたい」（ゼンセン同盟）が典型的だが、その他「連合が見えない」、「連合は積極的に外部市場を育成しようとしているのではないか」等々、バブル絶頂期に誕生したユニオン連合が、今や雇用・労働条件に窮々としている姿がさらけだされたといつてよいだろう。なお方針案についての発言者は一四人。その要旨は――

（金属機械）「企業の状況だけで賃上げ等に対処することはできない。労働組合には社会的な任務がある、社会的な存在があると活動している。役員からは連合がみえない。地域に新生活運動がはなされ金属機械の中小の役員は、社会的な役割、社会的な存在を尊重するとしても経営者がそれを一蹴するならば、それは産業別労働組合が連合に加盟している組合と連合に結集していない企業単独の組合と別れていくことになる。」

雇用問題、賃金はナショナルセンターである連合・産業別労働組合が一体となって解決する問題である。その関連から九六春闘に向けては反自民・労働者政策闘争の闘いについて一体となって総力をあげて闘うこと、賃金や労働時間、労働条件、日常の社会生活の問題については、各労働組合がきちんとした雇用形態、残業・割増についても連合が強化することを訴えたい。」

（全化同盟）「労働組合の再構築について認識は同感である。雇用の流動化のなかでの新しい組織か機構の構築が重要。しかし企業別組合を基本としつつも産業別なのか職能別なのか見えていない、私たちは規約で提起しているのがゼネラルユニオンである。連合がいつている産業別労働組合では実施されない中小の人達をさらに拡大していく立場から、方針を補強する意味でゼネラルユニオンの必要性を解いていかなければならない。」

ここで問題なのは地域ユニオンである、否定はしないが地方連合会に加入しているが産別加盟を前提として認めているがこれは例外である。連合の組織方針におけるところの規約上の原則はあくまでも全部産業別労働組合がベストであるが、これが解明しないところにおいては一人歩きをして、ゼネラルユニオンとして中小の組織を使命としてもっているところには労働組合の経営は死活問題である。地方連合会に寄与し産業別労働組合に所属しないとすれば、ここでゼネラルユニオンの必要性をいっても成り立つことはできない。」

〔電力総連〕「エネルギー問題について、連合は制度政策要求のなかで原子力利用とプルトリウム研究開発について連合がとりまとめたことについてお礼を言いたい。化石燃料の利用限度、水力発電の開発限度、次世代燃料の開発には相当の時間がかかる。危険と言われている原子燃料も安全といえる状況。原子燃料の再利用は国民には理解しづらい。原子燃料施設を見学されたい。」

〔自治労〕「制度政策闘争について、雇用不安の問題、一極集中化の問題、環境、人権、高齢化社会、不安定是正の社会問題すべて連合の解決しなければならぬ問題である。地方連合として二一世紀をめざして高齢化社会に向けての福祉政策にむけては、地方連合ふくめた対応が必要である。連合が見えないなどの発言があった、大衆行動を訴えたい。政策制度を実現させるための連合総体の国民という幅広い共感をえるための喚起である。連合内の組織がともに闘っているという連帯の意志行動である。フランス核実験の問題、沖縄人権侵害に関する問題、これらは一点の行動指示ではなくして国民と統一できる大衆行動をすべき」

股裂けより「八岐大蛇」?

〔ゼンキン連合〕「究極の連合の考え方は自民党の一党単独支配を打破して勤労者の立場の政権をつくることだ。具体的に衆議院小選挙区のたたかいをするとどうなるのか迫っている。連合の股裂きをさけるために地域ブロックでリベラル近畿・リベラル東海の検討がなされているが、連合としてどのような見解を持っているのか。小選挙区とは一騎討ちのたたかいになる。一人区で二人を推薦するのは不可能である。連合を股裂きしないためにどうするのか。前向きの見解を聞かせてもらいたい。」

〔連合石川〕「連合は構成組織を縦糸とし地方組織を横糸とし全国展開していると思っっている。六年たった現在では、連合とはなんであるのか、どうあるべきかとあらためて問われていると地方において実感している。真剣に努力しつつも今日の経済措置のなかでは賃金闘争・時短闘争がすすまないことにも苛立つ、加えて政治的な不統一、今日の状況は失礼な言い方をすれば各産別のさまざまにご意見や書いてあるものを見ると、股裂きというよりも「八岐大蛇（やまたのおろち）」になりはしないかという心配をしている。成熟化社会については「パイはそれだけ増えない」なかにおける賃金闘争・時短闘争、雇用の問題については現実にはせまられている。このことについては職場の組合員にわかりやすい提起のなかで中期長期討論集会のなかで包み込んだ議論をもとめる。」

中小に手を差し伸べよ

〔全国一般〕「成熟化社会への挑戦となっっているが本当にそうなのかとの気がする。毎日新聞が六月一五日リストラの記事をだしている、ベストテンすべてが連合の企業である。四

万人いて六%が減っている。一〇社のうちたったの三社で一%だけの役員、高齢化社会に労働者だけに犠牲が集中していないか、この声をあげていくのが連合ではないか。全閣連下請け企業では大変な実状がある。大阪のある電気メーカー下請けがストライキ、全国一般が組織化した六〇名（全体で六〇〇名）以外は全員解雇した。解雇された者は一年の有期雇用だから退職金もないなかで辞めていつている。労働組合に入った者だけが退職金をうけとり有給の保証もえたが、そのすそのでは大きな合理化がおこなわれている。連合運動のなかでもっと声を上げていくべきである。

派遣労働者の問題は臨時工・社内工の制度があったが、日経連のいう新時代のあり方の問題では集団的な団結ではなくして、個人の闘争において自分が努力すればのこれらもっていききたい。労働組合としては個人間の競争で自分の身を守るのであって労働者が団結する事によって身が守れるという連合の位置づけだし、日経連に断固反対すべきだという説に賛成。全国一般の大会ではリストラの討論が集中した、労働者の権利を守るのが自分たち自身の力だが、力強い連合の評価の一方で解雇撤回の支援を求めにいったら断わられている。中小の仲間が助けを求めていったときに手を差し延べてもらいたい。」

〔連合京都〕「選挙で社会党や新進党の推薦を返上し、いずれの友好党議員の協力でたまたかかった。社会党新党にかかわる民主リベラル労働会議、新進党に求心力をたかめようとすると活動がある（推進共闘会議、反推進共闘会議）。地方連合は労働運動はやって当然、政治活動がやれなければ存在意義は半減する。スローガンに「変革に挑むたしかな一歩」に期待する。産別自決もいいが地方連合が生きていくために指導部の指導をもとめる。」

反戦闘争の強化を

〔国公総連〕「反戦闘争を目にみえる形で強化してもらいたい。総評がかつて三井三池の反戦闘争を提起して発展してきたあのような闘争ができればありがたい。沖縄に在中しているが世界の情勢を見た場合、冷戦の崩壊以降アタントの方向とはうらはらに宗教対立・民族対立で紛争が激化している。沖縄の状況は復帰して二五カ年経過しているが広大な米軍基地をかかえて基地の重圧に苦しんでいる。全国の米軍基地の七五%が駐屯し沖縄本島の二五%が米軍基地にとられている。実弾演習は日常茶飯事、パラシュート降下訓練、ジェット戦闘機の騒音などが年々悪化しているのが現状である。」

小学生が米軍に暴行された、非人間的な事件が発生している。あらゆる団体から抗議の集会がもたれている。県連合と労働センターが急遽交流集会を開催しかつてない盛り上がり五〇〇〇名があつまった。自民党もふくめて政治七会派が善処をして県民大会をして米軍への抗議と、地位協定の見直しをしていく闘いが準備されている。沖縄はつねに戦争の恐怖のなかで生活している連合が反戦闘争を強化することを歓迎する。」

〔全印刷〕「運動方針その一、三、四にかかわり発言する。成熟化社会の考え方と未来指向については理解できるが、それ以前に連合としてやるべきことがあるのではないか。春季生活闘争にかかわり補強意見をいう。」

無味・無乾燥な鷲尾答弁

以上の質問、疑問、要望への鷲尾事務局長の答弁は、まるで木で鼻をくくったように素っ気ないもので、その象徴は全国一般の代議員の発言に、「開き直りのようだが、わかり

やすくするのは(産別の)皆さんの役割」と答えたところだ。答弁要旨は――
中間答弁鷲尾「成熟化社会について理解は内外情勢の推移について関連している。新たなシステムの構築、企業の活力を生かす福祉経済社会、日本型の雇用システムだ。従来の高度成長では低成長であるかもしれないが、マクロ経済としての豊かさでない、消費者中心の経済の豊かさは終焉せざるをえない。物中心の成長はない、予算編成のなかで公共事業の見直しをしなければならぬが変更は何パーセントかしかならない。生活者に必要な資源を配付できるのか、提起が必要、物がうつる場合には雇用も大事である、マクロの当事者は痛みを感じるがソフトウェアングしていかなければならぬ、ここに目配りするものが運動の大切なところ。合意形成について自由な市民参加、誰もが参加できる地域型の市民集団のなかに市民として参加する、その方々が運動として自治体のなかで活動することになる。」

最終答弁「大衆行動は連合東京の考え方を中心としながら関東全県の中央行動をふまえて連合がおおきな方向性を示し、連合東京だけではなしに大阪でも体制をとることができることが重要である。」

政治方針については、政治活動は我々の政策達成の手段である。手段が目的化してはいけぬが連合が手段について統一したかたちでおこなうことが政策を実現することは間違いないが、現実の問題は我々が政党ではないので政党にかもしださせなければならぬ努力をどのように結集するかが問題である。地方連合会が統一した場合には単産についてもある程度の裁量を認めないと連合の政治方針と違ってくるわけですから、柔軟性をもつたうえで地方で決定したことを尊重したい。

連合が見えないとの発言にこたえて、連合内のレベルは多少分かりにくくとも連合の方針にもとづいて皆さん方にやってもらいたい。」

批判票は約一割に

この他、マスコミの関心を集めたのが事務局長人事をめぐる選挙がおこなわれたことだ。鷲尾氏に対抗し名乗りを上げたのがJR総連委員長の福原氏で、選挙結果は鷲尾四八五票、福原四九票、無効票一三となった。

また副会長人事をめぐる規約が校正されたのにもない、累積投票がおこなわれ、六九組織が賛成(六九六万四八九四人)、一組織反対(七万一千七五五人)で原案どおり可決承認された。

(K)

『政界再編後を読む』(上野建一著)のすすめ

社会党結党は一九四五年十一月二日。今年、五十歳を迎える社会党だが、危急存亡の危機にある。社会党の五十年は波乱万丈の歴史だった。

本書は労戦再編後、ピッチをあげて進出した政界再編の背景、本質、現状をリアルに描きだす。そして危急存亡の危機にある社会党再建の方途を示している。

政治に関心をもつすべての人々の必読の書である。ぜひ一読を。そして日本の政治と社会党、護憲勢力の結集の方途を考え行動しよう。

本書は定価千五百円。割引制度もあります。お申し込みは社会通信社へ。

◇国労帯広闘争団からの報告◇ 国鉄闘争への熱い想いを交流

岩手県労センター主婦の会等と交流

岩手県労センターとの交流

「解雇撤回・地元J R復帰」全面一括解決の重要局面を迎えている国鉄闘争の支援・連帯の拡がりが強まり、岩手県の主婦と国労帯広闘争団の激励交流がマスコミに取り上げられ反響を呼んでいる。

国労帯広闘争団の支援受け入れをしている岩手県労センターは、これまでも支援米や激励行動を積極的に行ってきた。

今回は、平和環境岩手県労センター主婦の会と国労盛岡支部家族会による国労帯広闘争団激励交流団（団長・武蔵フキ子主婦の会会長）一行十五名へ日通労組・全通労組・県交通労組・釜鉦労組の各主婦会、国労盛岡支部家族会・引率者〓国労盛岡支部〓が九月二十一～二十三日の日程で訪れた。

《二十一日》夕方、帯広駅で闘争団員の歓迎の出迎えを受け、帯広・十勝の平和運動センターと社会党を訪問後、地元支援者を交えた夕食交流会を開いた。

《二十二日》高橋幹夫帯広市長に支援要請の表敬訪問。銀河線（第三セクター、旧国鉄千北線）の足寄駅まで足をのばし本別町へ。

ここで帯広闘争団の事業体〓手づくりハム・ソーセージの（有）スモークハウスの団員を激励、製造に関わる三名と共に記念写真をうつす。

十勝ワインで有名な池田町へ。昼食交流会には、斉藤孝一池田町助役も激励にかけつけバーベキューや秋サケの「ちゃんちゃん焼き」を囲んで懇親を深めた。（庶民の軽スポーツ〓十勝生れのパーク・ゴルフを少々楽しむ）

音更町の十勝川温泉で大交流会。闘争団員、家族、J R国労組合員、山田栄一、村中庸あき見帯広両市議（国労出身）、池本柳次社会党道本部農林水産業対策特別委員長（衆議院選候補予定者、国労出身）、そして第三次広域採用で東京へ行った仲間も夫妻で飛び入り、約五十名が夜おそくまで交流を深め合った。

《二十三日》帯広駅で団員の見送りで若手路の帰途についた激励交流団から当日結婚の大崎裕司団員と麻紀さんに花束がプレゼントされた。

熱い想いが前面に

激励交流団・武蔵フキ子団長「闘争団員・家族のナマの声を聞き、岩手に持ち帰り支援を拡げたい」

帯広闘争団・白木利明団長「皆さんの激励で闘いつづけてくれた。支援にむくいる解決をはかりたい」

国労盛岡支部、柳館誠書記長「盛岡では多数が出向や地域間移動されながらも闘争団と手をたずさえ、多くの単産に支援を拡げている」「支援米の取り組みを今年も行いたい、青森県共闘会議の活動があり、一関共闘も結成される」

帯広平和運動センター、佐野喜洋議長「国鉄闘争が十勝の運動を支えてきた。郵政民営化は国鉄分割・民営と同じ、小さな郵便局が廃止になると地域がどれだけ大変になるか訴えていきたい」

池本柳次衆院候補予定者「闘争団の闘いは人権を守る大きな運動、アメリカがベトナム

に敗北した根拠は大きな国際連帯の力であった。大衆に依拠した闘いをめざしたい」
 社会党十勝選挙区委員会、三浦丈夫書記長、社会党帯広総支部、安田正雄書記長「どう
 支え合うか地元でも連帯を強めている」

連帯する全道庁有志の会（八月に結成）、斉藤克己代表「中途半端でなく、納得する解
 決までガンバレ、支援米等で岩手と帯広は親密になった」

十勝民労協（国労も加入）、山下真事務局長「国鉄を知らない若い仲間へ悔しさを伝え
 共に頑張る」

闘争団の心意気に学び合う

岩手県労センター主婦の会の皆さん「明るさと元気の良さに逆に勇気づけられた」「家
 族にとって健康が一番心配、頑張ってこれるのは奥さんの理解と協力があつてのこと」
 「主人は清算事業団のこと忘れていたのではないか、もっと支援をといっている」「物販の
 お手伝いさせてもらった、皆さん若さで最後まで頑張つて」「九一年の帯広での交流会は
 涙でした。闘争団家族会が結成されてうれしい」

闘争団家族の声「岩手の皆さんのやさしさがつたわってくる。安心して岩手に送り出し
 てきた」「夫の失業、大変悩んだが、皆さんに助けられてここまでこれた。これからも一
 緒にやっていきたい」

闘争団員の声「昨年、岩手の仲間の激励＝虎舞の迫力、手づくりの感動忘れられない」
 「首切られた思いが、ともすると忘れるとききの激励にいつも感謝している」

JR国労組合員の声「去るも残るも地獄、JRに残っていても国労の考えに変わりはないし
 「また、出向に出されるが一日も早い解決にむけがんばる」「この闘いは単に雇用問題でない、
 闘争団の闘いがあるから今、国鉄型首切りをやれないのではないか」など激励する側、激励
 される側の人それぞれが国鉄闘争への熱い思いを語り合った。（国労帯広闘争団 佐野周二）

◇読者からのおたより◇

時節到来 「ごけん社会党」をまず中央に、中央に連動し地方組織をつくる時期がきた。
 連合も今や百%不要です。（静岡・A）

編集部より 私も同感。気迫、気合いが大切。静岡で強力な組織つくって。

「社会党」再建 先の社会党全国大会をうけて、京都も一月三日に府本部大会が開催さ
 れます。「通信」は党の動向を知る最大の情報誌。全国各地のとりくみが楽しみです。全
 国の仲間とともに「護憲の社会党」、労働者を支える「社会党」再建めざす。（しが・S）

編集部より 護憲ネットと護憲懇談会が融合します。地域から支えて！
 健康でありたい ちよつと体調不調。体も心も健康でありたい。（三鷹）

編集部より 快復されましたか。大事な時期、心身ともに充実でがんばろうよ。

貴誌が楽しみです 従前の社会党の基本線を守り育てることが運動のもとと、仲間と相談しな
 がらやっています。ますます適確な情報を待っています。（東京・Y）

編集部より 活動の報告等、原稿お寄せください。

忠実に生きる いよいよ待ったなしの状況です。心してかからねばと思っています。「理
 念なきところに運動なし」、自分の気持ちに忠実に生きたいと思います。（市原・N）

編集部より 党は自己の生き方の問題です。私も生き方を大事にしたい。

「新党をつくらせない、新党にゆかない」 いよいよ「新党」をめぐる党内で議論をしな
 がら、個々の党員は腹を決めなければいけない情勢となりました。基本政策変更から何度

か議論を重ねてきましたが、もう一つ決意が固まっていないのが現状で党員がバラバラにならぬよう、「新党」を作らせない、「新党」にはゆかない意志統一をしてゆきたいと考えています。そのためにも横の連絡網を護憲懇談会をつうじ確立したい。(柏市・I)

オウムと破壊活動防止法 「オウム事件」に便乗して日本の秘密警察とされる公安調査庁が破壊活動防止法の団体適用を策動している。同法はそれ自体、違憲の存在でありその解決によっては、労働、市民団体などの活動も大きく規制し弾圧をもたらす。オウム事件は刑法で解決されるべきである。(沼津・T)

編集部より この問題については原稿依頼中です。ご期待ください。

適用力なくした資本主義 さまざまな矛盾が社会の深部から表面に吹き出してきました。

一九一七年以降は社会主義があつての資本主義であつて、前者が崩れた今、資本主義の現実の適用力もなくなつてしまい、どうしようにもならないようになりました。(神奈川・O)

まつりで上京 国労帯広闘争団のオルグで十月中旬に岩手に入り、東京の団結まつりに参加します。(北海道・S)

編集部より 十月二十九日の「国労まつり」に私も参加します。楽しみです。

うれしいニュース ちょっと遅くなりましたが、嬉しいニュースです。九月おこなわれた東大阪市議選で護憲派の一議席を確保できました。「革新無所属」の新人、松平要君の初当選です。社会党は自民党市長の「与党」となつて、政治資金規制法事件を一言も追及できず、四年前の七議席から四議席に後退しました。(東大阪・T)

編集部より おめでとう。お父さまの松平さんは知っています。新議員によるしく。

大切なこと ソビエト型社会主義の崩壊の中で労働者の立場に立つことなどが忘れ去られようとしていることはいへん残念。根本的に改革し、改善すべきことと残すべきこと、伸ばすべきことをキチンと整理すべき時なのではないでしょうか。(千葉・T)

編集部より 資料ありがとう。活躍のごようす。さらにがんばって。

護憲新党は？ 護憲新党できますか。分裂していいのでしょうか。社会党を離れた人は今何をしていますか。(神奈川・Y)

編集部より 大会ご苦労さま。「分裂」を策しているのは、久保さんたちでは？護憲の「社会党」再建が準備されねばならぬと思うのですが。みんな奮闘中。

社会主義への道すじ 誌代遅くなり申しわけありません。もう一度、社会主義への道すじを明らかにして自信をもって運動にとりくまねばならないと思っています。(神戸・Y)

編集部より “社会主義勢力”の一時的後退でムキダシの資本主義があらわれれています。アンチ・資本主義として社会主義が再度考えられることは必至。坂牛論文おもしろい。

六三〇兆円は誤植では 党総支部にあつて大きく流動していく党の行方に憂うると共に従来の党がもつ理念の存続に方途をさがそうとしています。小生も一員をつとめる「やまがた新報」を同封します。用件が二つ。第一は六一六号中の二ページの六三〇兆円は六三〇兆円では。第二に「政界再編後を読む」を一冊お送り下さい。少額端数はどうぞご笑納のほど。(山形・S)

編集部より 六三〇兆円は六三〇兆円です。連合の文書に六三〇兆とありましたのでソノママにしたのです。ママ、としておけばよかったです。

職場は合理化、人減らし 毎号読んでいます。石油会社も規制緩和で「合理化」「合理化」です。職場は人減らし、QC、KYT、OJTと監視と競争です。会社は「合理化」といわずスリム化といっています。不満やグチはありますが、目が資本に向かず仲間労働者に向かいます。アキラメ、くじけそうになる時、「通信」を読みます。元氣が出ます。共にがんばりましょう。(新潟・K)